

## 『リベラルアーツ学群プログラム履修モデル集』について

リベラルアーツ学群では、2年次春学期から、専門科目の履修が本格的に始まります。この履修モデル集は、みなさんが専門科目の履修を行っていくためのガイドとして編集したものです。

履修モデル集は、各プログラムの「履修の手引き」と「履修モデル」から構成されています。

### ●履修の手引き

- ・「履修の手引き」には、各プログラムから履修のしかたについてのメッセージが載せられています。ある程度自分の志望するプログラムが絞れている人は、それらのメッセージを参考にして履修を行って下さい。
- ・特に、プログラムのカリキュラムが、先修条件が設定されていて履修順序に留意する必要があるのか、比較的自由に履修できるのかで、1・2年次の望ましい履修のあり方が違ってきますので、その点を注意するようにして下さい。

### ●履修モデル

- ・「履修モデル」とは、各プログラムの科目をどのように履修していったらよいかを、例として示したものです。各プログラムを修了するためにはメジャー32単位、マイナー16単位の科目を修得することが必要ですが、どのプログラムも、それをほかに上回る数の科目を提供しており、みなさんが、その専門分野の中でさらにテーマを絞った履修ができるようになっています。「履修モデル」とは、そうしたテーマの例にそったカリキュラムを示したものです。
- ・各プログラムの「履修モデル」ページには、そのプログラムの全科目をカテゴリーとレベルに応じて分類表示したマトリックスを記載しています。その中で「◎」のついている科目はメジャーの必修科目(教職モデルの場合は、教科に関する科目の必修科目)です。また、「○」のついている科目は、その履修モデルに該当する推奨科目です。
- ・また、「その他の推奨科目」には、そのプログラム科目以外のお勧めの科目を記載してあります。
- ・リベラルアーツ学群には、30のプログラムがありますが、この冊子には、各プログラムから提示された「履修モデル」が掲載されています。自分の関心あるプログラムの「履修モデル」をよく読んで、科目履修の参考にして下さい。

この『履修モデル集』は、みなさんが自分の学習計画を立てる際の目安として作成したものであり、モデルのとおり履修することを義務付けているわけではまったくありません。むしろ私たちは、みなさんが、Independent Learnerとして、自分の関心と視点に立って、独自の「履修モデル」を作成することを期待しています。

リベラルアーツ学群の科目編成はきわめて自由であり、内容を絞る、いろいろな分野を組み合わせる、その専門分野のさわりを学ぶ、など、さまざまな組み立て方が可能です。ぜひみなさんも、独自のテーマ性をもって自分の学習に取り組んでいって下さい。そして、「履修モデル」を通じたリベラルアーツ学群ならではの新しい学びの世界を、ともに切り開いて行きましょう。

## 経済学プログラム

<p>履修のしかた</p> <p>履修のステップとしては、まず予め専門基礎科目の「基礎マイクロ経済学」、「基礎マクロ経済学」といった科目を履修しておき、経済が動く基本的仕組みを理解した上で、必修科目の「マイクロ経済学Ⅰ」および「マクロ経済学Ⅰ」を修得し、また併せて「マイクロ経済学Ⅱ」および「マクロ経済学Ⅱ」を中心に、理論・歴史科目へと進むことをお勧めします(なお、「マイクロ経済学Ⅰ」は「基礎マイクロ経済学」が、また「マクロ経済学Ⅰ」は「基礎マクロ経済学」が先修条件となっています)。</p> <p>その後は各自の関心に応じて、それぞれ「国際経済」「ビジネスエコノミクス」「公共政策」に関連する応用科目群を学んでいってください。</p>
<p>他のプログラムとの関係</p> <p>例えば以下のように組み合わせることで学ぶことが考えられます。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・心理学プログラムと組み合わせ、「行動経済学」について学ぶ。</li><li>・歴史学プログラムと合わせて、歴史の動きを経済的側面から見る目を養う。</li><li>・法・政治学プログラムと合わせて、政治経済問題全体について学ぶ。</li><li>・数学プログラムと合わせて、経済学の数学的素養を広げる。</li><li>・情報科学プログラムと合わせて、情報経済社会に関する知識を深める</li><li>・国際協力プログラムと合わせて、途上国の経済発展の方策について考える。</li><li>・アメリカ研究、アジア研究、日本研究プログラムと合わせて、地域経済について学ぶ。</li><li>・環境学と合わせて、環境問題の経済的側面に関する分析力を付ける。</li><li>・メディア・ジャーナリズムと合わせて、政治経済報道を見る目を養う。</li><li>・データサイエンスと合わせて、経済データの分析力を身に付ける。</li></ul> <p>ここに挙げたのは一例で、他にも皆さんの目的に応じたさまざまな学び方が考えられます。</p>
<p>留学・教職その他</p> <p>教職で中高の「社会」「公民」を目指す方は、「基礎マイクロ経済学」「基礎マクロ経済学」「国際経済学」「開発経済学」が選択科目となっています。</p>
<p>学生へのメッセージ</p> <p>経済学は、世の中の動きや私たちの日常の暮らし、特にお金や仕事の問題と密接に関わっています。また、経済学プログラムで学ぶことの強みの一つとして、大学での勉強内容がそのまま就職活動や就職後の仕事に役立つことが挙げられます。桜美林大学生の就活では、普段経済ビジネスに関するニュースや新聞等を見ていないため、面接等で、何も答えられないこともよくあるようです。皆さんも経済学プログラムでの学習を通じて、経済ビジネスの動きを探ってみませんか。</p>

## 経済学プログラム

### 1 国際経済専門向け履修モデル

グローバル化した今日の国際経済においては、諸外国の経済や社会の動きは、互いに深い依存関係にあります。我々の日常生活や各国の景気や政策も、こうした国際経済の動きによって、さまざまなところで大きな影響を受けています。国際経済専門向け履修モデルは、こうした国際経済が動くメカニズムを理解するとともに、国際経済に関する幅広い知識、教養を身につけることを目的としています。

level カテゴリ	100			200			300			400		
	推奨	科目名	単位	推奨	科目名	単位	推奨	科目名	単位	推奨	科目名	単位
理論・歴史科目		経済史	2	◎	マクロ経済学I	2		財政学	2			
		経済数学入門	2	○	マクロ経済学II	2		計量経済学	2			
				◎	ミクロ経済学I	2						
				○	ミクロ経済学II	2						
					日本経済論	2						
					国際経済学	2						
					金融論	2						
					経済統計論	2						
応用科目					経済分析演習	2		国際金融論	2			
					経済分析フィールドワーク	2		国際貿易論	2			
								開発経済学	2			
								アメリカ経済論	2			
								中国経済論	2			

その他の推奨科目 ※〔 〕内は単位数

- ・ 基礎ミクロ経済学〔2〕
- ・ 基礎マクロ経済学〔2〕
- ・ 政治経済学〔2〕

注意！:必修科目の「マクロ経済学 I」および「ミクロ経済学 I」は、それぞれ専門基礎科目の「基礎マクロ経済学」および「基礎ミクロ経済学」が先修条件となっています。

## 経済学プログラム

### 2 ビジネスエコノミクス専門者向け履修モデル

企業活動のグローバル化やインターネットを活用した新たなビジネスモデルの出現など、企業や産業をめぐる環境は複雑になり、企業従来とは異なる対応が求められています。

ビジネスエコノミクス専門者向け履修モデルは、このように変化しつつある企業活動や産業活動について、経済学の観点から学ぶことを目的としています。

level カテゴリー	100			200			300			400		
	推奨	科目名	単位	推奨	科目名	単位	推奨	科目名	単位	推奨	科目名	単位
理論・ 歴史科目		経済史	2	◎	マクロ経済学I	2		財政学	2			
		経済数学入門	2	○	マクロ経済学II	2		計量経済学	2			
				◎	ミクロ経済学I	2						
				○	ミクロ経済学II	2						
					日本経済論	2						
					金融論	2						
					国際経済学	2						
					経済統計論	2						
応用科目					経済分析演習	2		企業経済学	2			
					経済分析フィールドワーク	2		中小企業論	2			
								産業組織論	2			
								農業経済学	2			
								IT経済論	2			

その他の推奨科目 ※[ ]内は単位数

- ・ 基礎ミクロ経済学[2]
- ・ 基礎マクロ経済学[2]
- ・ 政治経済学[2]

注意！：必修科目の「マクロ経済学 I」および「ミクロ経済学 I」は、それぞれ専門基礎科目の「基礎マクロ経済学」および「基礎ミクロ経済学」が先修条件となっています。

## 経済学プログラム

### 3 公共政策専門者向け履修モデル

私たちは、市場経済と政府活動が混合した経済システムの中で、消費者・生産者・労働者・住民・学生・主婦などの立場に立ちながら、生活しています。公共政策専門者向け履修モデルでは、市場経済と政府活動を貫く、市民・地域・保全・共生・発展などの「公共」という観点から、様々な公共政策の性格と問題点を分析していきます。

level カテゴリ	100			200			300			400		
	推奨	科目名	単位	推奨	科目名	単位	推奨	科目名	単位	推奨	科目名	単位
理論・歴史科目		経済史	2	◎	マクロ経済学I	2		財政学	2			
		経済数学入門	2	○	マクロ経済学II	2		計量経済学	2			
				◎	ミクロ経済学I	2						
				○	ミクロ経済学II	2						
					日本経済論	2						
					金融論	2						
					国際経済学	2						
応用科目					経済統計論	2						
					経済分析演習	2		環境経済学	2			
					経済分析フィールドワーク	2		労働経済学	2			
								公共経済学	2			
								地方財政論	2			
							地域経済論	2				

その他の推奨科目 ※[ ]内は単位数

- ・ 基礎ミクロ経済学[2]
- ・ 基礎マクロ経済学[2]
- ・ 政治経済学[2]

注意！:必修科目の「マクロ経済学Ⅰ」および「ミクロ経済学Ⅰ」は、それぞれ専門基礎科目の「基礎マクロ経済学」および「基礎ミクロ経済学」が先修条件となっています。